

2009年5月1日版

ONNET 日報による効率化の実際

株式会社オンネット・システムズ

www.onnet.ne.jp

onnet@onnet.ne.jp

■ ONNET 日報でどんな効果があったか

導入効果について、弊社の実績を紹介します。

● 工数集計に関わる削減効果(定量効果)

弊社では、システム開発の効率性を測定する分析作業を行う必要がある。下図は、工数集計における ONNET 日報稼働後の改善効果を表している。

項目	これまでの作業方法	所要時間(月)	改善後時間(月)	効果(月)
工数分析作業の削減	エクセル表で記録し、事務係が集計	40 時間	0 時間	40 時間
勤怠情報の集計	勤務日数、年休、残業時間、及び交通費精算集計	7 時間	2 時間	5 時間
請求書の作成	エクセル表の実績時間を集計、請求書作成	7 時間	3 時間	4 時間
合計		54 時間	5 時間	49 時間

● 効果

月当たり、49 時間の削減効果が得られた。1 時間単価、5,000 円とすると 245,000 円の削減となる。

●業務改善による定性効果

1.各種時間集計分析(入力さえしていれば、瞬時に集計できる)

- ・個人別作業集計……………負荷分析
- ・取引先別作業集計……………取引先ごとの投入時間分析(利益貢献度分析)
- ・見積もり別、収益差異集計……………見積額と実際の原価比較。今後の見積額算定基礎の把握。
- ・社内オーバーヘッド分析……………意味の無い作業の抽出

2.業務生産性の増加(設計工程は変化なし、製造工程で20%以上の効率化と認識)

- ・非効率作業の見直しと改善作業
- ・システム開発自動化の実施(製造工程、テストの効率化)

3.社員の意識変化

- ・指標を見ながら常に効率化を考える様になった(管理職レベルで)
- ・それぞれの売上げに対して、自分がどう貢献しているかが明確になった。その結果、無駄時間が減った

●課題について

- ・一般社員は、まだ自分の仕事に集中しており、作業の効率化に着眼していない。
- ・業務生産性の効果測定指標が定まっていない。どうやって業務生産性を測定するか。
- ・社内の管理作業の無駄をどう測定するか。必須作業とそうでない作業の分離をどう整理するか。

以上